

会 議 録

会 議 名	令和5年度第1回東浦町景観まちづくり委員会	
開 催 日 時	令和5年7月2日（日） 午後3時から午後4時45分まで	
開 催 場 所	東浦町役場 本庁舎3階 合同委員会室	
出 席 者	委 員	生田京子氏（委員長）、内藤明綱氏（副委員長）、米澤貴紀氏、水野善久氏、戸田重雄氏、万木和広氏、青山佳子氏、日高啓量氏
	事務局	神谷町長、篠田副町長、棚瀬都市整備部長、川瀬都市計画課長、竹内都市計画係長、水野主事、中村主事、佐東生涯学習課長、楠文化財係長
議 題 (公開又は非公開の別)	1 議題（公開） （1）令和5年度東浦町景観コンテストについて （2）緒川村郷蔵について （3）景観共感プロジェクトについて	
傍聴者の数	0名	
議 論 内 容 (概 要)	議題の議論内容については、別紙のとおり	
備 考		

町	長：	休日ですがお集まりいただきありがとうございます。東浦町は県内町村の中でいち早く景観行政団体となったが、重点区域設定の検討の際に様々な意見があり、それ以来慎重に景観まちづくりを進めている。積極的に重点区域の設定は目指さずとも、本町の特徴ある景観として位置付け、また、住民の共感を呼べるようできることから取り組んでいる状況である。その中で、委員の退任及び新任があつて初開催の今回は、自分が町長退任前最後の会議ということもあり、節目となると感じている。人は変わっても本町の景観を育てていこうという価値観は変わらずに、今後も頑張っていきたい。本日はよろしくお願ひします。	
事務	局：	委員長及び副委員長を決定するため、東浦町景観まちづくり委員会設置要綱（以下、設置要綱）第5条第2項により、委員長は委員の互選により定めるとしているが、推薦による方法で選出してよろしいか。	
委	員：	異議なし。	
事務	局：	推薦はないか。	
委	員：	見識及び人柄に優れている生田京子委員を委員長に推薦する。	
事務	局：	生田委員を委員長としてよろしいか。	
委	員：	異議なし。	
事務	局：	生田委員を委員長に選出する。	
委	員	長：	大学で建築計画・設計を教えており、古い町並みで活動することも多々あるが、東浦町というとても美しい町に関わることができ楽しみにしている。会議前に町内を見て回つたが、美しい風景、残したい風景があつたと感じている。これからよろしくお願ひします。
事務	局：	設置要綱第7条第1項により、委員長に議長を務めていただき、議事の進行をお願ひします。	
委	員	長：	それでは、副委員長の選出について、設置要綱第5条第2項により、委員長が指名することとなっている。地域に詳しい地区の代表の方にお願ひしたいため、緒川連絡所長の内藤明綱委員を指名したいがよろしいか。
委	員：	異議なし。	
委	員	長：	内藤委員を副委員長に指名する。
委	員：	景観に関わつて5年、少しずつ勉強させていただいている。これからも皆様に教えていただきながら頑張っていきたい。よろしくお願ひします。	
議題			
事務	局：	議題（1）令和5年度東浦町景観コンテストについて説明 今年度は、前回会議の意見を参考に、「通勤・通学路、散歩道で見つけたお気に入り」をテーマとし、何気ない日常の風景や場所を発掘してい	

きたいと考えている。部門及び期間については昨年度と同様である。

テーマ及び趣旨については、書面にて委員に意見募集を行った。趣旨文の表現に関する意見や地区別の表彰枠を設ける意見等があり、趣旨文を当初案から一部修正した。地区別の表彰については、審査の際に実際に出てきた作品を見て判断させていただく。

次に、昨年度との変更点について説明する。まず、点数制限について、Twitter 部門は制限無しとしていたが、様々な人から様々な視点による風景、場所を集めたいため、各部門3点までに変更する。また、写真部門の加工について、応募者のこだわりや感性に幅を持たせるため、作品を魅力的に見せるための色のレタッチや補正は可とする。組写真及び合成等は、例年通り不可とする。また、Twitter 部門のハッシュタグについて、テーマを意識した作品を投稿してほしいため、「#東浦町景観コンテストについて2023」と「#通勤・通学路・散歩道で見つけたお気に入り」の両方を付けて投稿という形に変更する。最後に、景観まちづくり取り組み部門の副賞について、金品ではなく周囲へのPRになるような記念品の贈呈を検討している。

なお、ポスターについては、作品の画像をメインにしたデザインで、募集開始に合わせて町内各施設等で配布を行っていく予定である。説明は以上である。

委員： 小中学校の宿題にできなくなった経緯は何か。

事務局： コロナ禍のタイミングで、学校の業務改善のため宿題とすることが難しくなった。

委員： 児童にとっては、写真1枚を宿題の成果とできるならありがたいのではないか。

事務局： 小中学校には絵画を宿題としていたため、宿題にできず応募数が減ったのは絵画である。写真は、例年ほぼ変わらない応募状況である。

委員： 部門については、昨年度の小学生の部、中学生の部、一般の部の分け方と同様か。

事務局： 昨年度まで、小学生未満の子どもたちと高校生以上の大人たちが同じ一般の部となっており、ここは分けたほうが良いと考え、小学生以下の部、中学生・高校生の部、一般の部に変更する予定である。

委員： 昨年度の状況から、その分け方の方が良いと考える。

委員： 東浦の日常的なところが集まりそうな良いテーマだと思う。なお、作者と対話ができるよう、絵画や写真に「なぜ気に入っているのか」等のコメントを付けてもらってはどうか。また、審査基準が明確でなく、せっかく応募してくれたので、審査講評を伝えて言葉による対話が生まれるといいと思う。

ワークショップから数えると10年以上、景観まちづくりの取組みが蓄積されてきている。当初はアンケートやワークショップで共感を得て、現在は景観コンテストや景観PR冊子「うらうらさんぽ」を通して共感を得ている。蓄積されたデータを受け渡し、更新していく必要がある。「うらうらさんぽ」を使ってイベントを行い、次に反映していければと思う。

事務局：コメントについては、既に応募用紙に記入欄があるが、「〇〇を撮った」等の簡単な内容が多いため、もっと記入してもらえるような工夫を考えていきたい。審査講評については、表彰式場で受賞者への質問や対話の機会は設けているが、なぜ選ばれたか等のフィードバックはできていなかった。審査講評を行うことで、それを見た人が次回はテーマや趣旨に沿ったものを出そうとする働きかけになると思うので、検討する。

委員：昨年度の表彰式で、事務局が作品について説明し、受賞者と対話している場面が印象的だった。そこに審査講評を付け加えることで受賞者も一層喜んでもらえるのではないかと。

事務局：参考にさせていただく。蓄積については、景観コンテストの蓄積の結果「うらうらさんぽ」を製作したところである。また蓄積されていた時にどうするかを常に考えているため、良いアイデアがあれば助言いただきたい。

委員：ポスター案について、今回は日常の道や風景を応募していただきたいので、それが感覚的に伝わるような画像をもっと大きくした方がいい。

委員長：小中学校の宿題にはできなくても何かしらの形で連動できたらいいと考える。学校側の課題を理解し、逆にこちらから提案する等のアプローチをしてみてもどうか。

事務局：議題（2）緒川村郷蔵について説明

今年度、緒川にある郷蔵が老朽化に伴い解体されることとなった。跡地には黒壁を再利用した塀の設置が検討されている。東浦町の特徴ある緒川屋敷地区であり重点区域候補地区にもなっているため、委員の皆様へ報告し、景観的な観点から意見を伺いたい。

郷蔵は大字緒川字屋敷貳区、緒川児童館西側の旧道に面して位置している。景観計画では「屋敷と郷中の景観ゾーン」に該当する。

郷蔵の概要について説明する。木造平屋建の土蔵造り、屋根は切妻造の本瓦葺で、江戸時代に建設され、年貢米の保管庫として使われていた。今回の解体に至るまでの経緯としては、令和2年度に雨漏りが発生し、曳家や活用用途を検討してきたが、周辺の条件やコスト等の面から課題が多い状況だった。安全性への懸念や老朽化が著しく、有効な活用方法も決まらないため、費用対効果から、残念ながら解体する方針となった。

また、この間に、本委員会委員でもある大学の先生に調査を依頼した。その結果、県下で確認されている数少ない郷蔵の一つであり、その中でも規模が大きく、この地域の遺構であると評価された。解体前の記録を残すため、昨年度に詳細な図面作成等の委託を行っている。また、町道の拡幅路線に入っており、拡幅要望が地区から出ていたため、撤去後は道路拡幅を行う。

景観行政としては、可能であれば保存したいが、活用の見込みがなければ費用対効果としても難しいと考えていた。歴史と記憶を少しでも残すため、解体の場合は新しく必要となる塀に黒壁の材料を再利用できないか、前もって所管課に意見を伝えていた。道路沿いに塀が必要ということであったため黒壁の古材をできる範囲で塀に活用する方針とした。また、ここに郷蔵があったという記憶を残すための看板設置も検討している。

次に、道路拡幅について、現道の中心から4m拡幅を行うことに伴い、拡幅線にあたる郷蔵、ガス変圧器、フェンス及び植栽等を撤去し、ガス変圧器及び門柱等を移設する。北側は黒壁を再利用した塀を設置する予定で、南側は検討中である。

今後のスケジュールについて、今年度中に郷蔵及びガス変圧器の撤去及び移設、令和6年度に道路拡幅工事と共に黒塀の設置工事を行う。

ガス変圧器とこれを囲むフェンスについて、黒塀と馴染むように検討をお願いしている。また、黒塀の設置範囲について検討する必要がある。なお、既存の植栽は撤去ではなく移植にできないか、検討をお願いしている。説明は以上である。

委員長： 議題（2）について、ご質問・ご意見を伺う。

委員： 住民として祭り等の思い出があり、無くなるのは寂しい。撤去した後は移設するのかなと思っていた。塀だけ残すのであれば、無しが良いのではないかと。2、30年前であれば各地に黒壁が残っており、それに揃えて残すのも手だったかもしれないが、周囲にあまり残っていない今、そこだけ黒壁が残るのはむしろどうかと思う。児童館の子どもにとっても、車がよく見える見通しの良い壁の方がいいのではないだろうか。

委員： 周辺拡幅を考えると相当な年数がかかると感じている。朝のおじょう坂では刈谷方面への交通量が多く、拡幅でセットバックされたら車はスピードが出る。それが町道において必要なのだろうか。平成25年から地区より拡幅要望があったとのことだが、現在も要望があるのか。

委員： 非常に難しい問題である。個人的には広げない方がいいと考えている。現に子どもたちが横断するところで車がスピードを出して走っている。10年前と今は違う。拡幅も良いことだが極端に広げない方がいいと考え

る。

委員： 道路中心線から、児童館のある東側に4 m広げるとあったが、西側にも4 m拡幅するのか。

事務局： 所管が道路部局であるが、地域で交通量の多い道路を6 m、8 m等と拡幅する計画としている。本件は両側に4 m拡幅して計8 mとなる計画である。

委員： おじょう坂から左折したところの、拡幅による道路のズレが気になる。事故防止の点で配慮が必要だと考える。2年間で4回ほど事故があったと記憶している。通学路でもあるため、この計画を良しとするのか安全計画上でも考えた方がいい。

また、グリーン・ラソの壁はカーテンウォールのため強度がほぼ無い。もし車が突っ込んだら大変なことになる。バッファゾーン等を設けないと大事故に繋がりがかねないため、その点も配慮すべきである。

なお、郷蔵を解体せざるを得ないということを、皆にわかりやすくコスト等を検証して明らかにして欲しい。思い出もあるため、そういった説明がないと辛い。

最後に、塀について、この辺りの黒壁はほぼ残っていない。黒塀にして残せば違和感があると思う。周囲の古い店舗が、改修する際に黒壁を継承し連続させていこうという意志があればいいが、また、黒壁は維持管理費が非常にかかる。文化センターや勤労福祉会館等の公共施設群は赤レンガが基調となっている。昨年作った縁側の一部の床も赤レンガであり、児童館やグリーン・ラソに調和するのは赤レンガかもしれない。文化センター等の公共施設群とも文脈が合ってくる。

事務局： 道路拡幅については、道路部局が全体のネットワークも含めて決めているものであり、郷蔵の老朽化のタイミングと合わせて拡幅計画をまずは進めようというところであると考えている。

南側のグリーン・ラソは地域の縁側としてオープンな空間を望んでいると聞いており、現在の通路の半分ほどまで拡幅されるため、車のガード程度のみでオープンであればと考えている。所管課及び施設を使っているNPO法人の意見も聞きながら検討していきたい。北側の黒塀の計画は、景観的な視点で、解体がやむを得ないのであればここに郷蔵があったという記憶を残すための計画であった。

委員： 黒塀にして残す意味を考えなければならない。目隠しなのかそうでないのか目的がよくわからない。現時点の参考図面では、両側から相当な風圧を受けそうである。風は抜きつつ目隠しにもなる方法もあるが、設置するなら設置する意味を考える必要がある。

事務局： 塀としての機能を確認したうえで、どういった構造の塀が必要か再度検討していく。

委員 長： 道路の安全性、グリーン・ラソ辺りの扱い、塀の機能、郷蔵の解体の是非にまで話があったが、関係課とのコンセンサスの取り方はどのようなであったのか。本日結論を出せるものなのか。

事務 局： 今後関係課へ情報共有し、検討していくこととなる。まずは本日の意見を内部で共有させていただきたい。

委員： 歴史的なまちなみにおいて、高さ方向、道の幅と建物の高さの関係は重要な要素である。建物が連続するような場合、必ず切れ目があり、それによってリズムが生まれている。一方で、今回の24mの長さで人の高さくらいのもの連続が緒川に合うのか疑問である。他の委員も仰っているように、そうまでして残すべきだろうか。ここがどうなれば地域が良くなるか考えなければならないと思う。現時点では少しやりすぎなデザインと感じる。

委員： 写真を見た時、児童館やグリーン・ラソの雰囲気と合うのか疑問だった。たしかに文化センター等のレンガの建物と合わせた方がまちなみとして大事ではないか。また、この辺りは歩いて心地良さを感じる散歩道であり、時間と共に新しい顔になっていくのだと思うが、拡張して歩いて楽しくなるのかどうかも疑問である。車のためではなく、地域の人を通ることに価値がある道だと思う。そこを活かすのが緒川や生路の景観まちづくりに繋がっていたのではないか。黒壁に価値があるならば塀ではなく壁で残してはどうか。

委員： 大昔、入海神社の鳥居を作った塚本氏がこの辺りの土地を所有していた。大きな屋敷、酒蔵、郷蔵、石の門柱などが昔からあり、一帯が行政の土地であったこともある。それらの歴史が感じられ、かつ、中の公共施設がどこからでも見える見通しの良い塀にして欲しいと思う。

委員 長： 様々な意見があったが、地域の記憶やまちの歴史を語るうえで大切なものであったという発言や、歩いて楽しい道になって欲しい、塀のデザインに対する疑問も出てきた。なかなか複雑であるが、このエリアに対して行政が示す態度が問われている件であると感じるため、安全性や雰囲気をどうしたら残せるのか、少し慎重に進められてはどうか。

舗装のパターンを変えることで車の侵入を止める手立てもある。今日の意見をもとに、関係課でコンセンサスをとってほしい。

事務 局： いただいた意見を関係各課でまずは共有し、条件等を整理のうえ、検討していく。

委員： 解体が決定だとしても、今年中にやることも決定なのか。

担当 課： 道路拡幅の件もあるが、建物自体が雨漏りもしており、危険な状態である。移築、曳家等も検討したが、約6,000万円かかると試算されたため、費用対効果の面から難しいと判断した。また、いつ屋根が落ちるか分からない状態のため、今年の祭礼が終わったら解体をする予定である。

委員長： いろいろな経緯があると思う。景観にとって良い形で結果が示されるよう、調整して提案いただければと思う。

事務局： 議題（3）景観共感プロジェクトについて説明

これまで、業者向け勉強会、ドローン撮影、ワークショップ、模型作り等の意見があったが、愛知県より「ブラアイチ」開催の打診があった。子どもが参加しやすく、1日限りのイベントではあるが、積極的に景観のPRの場として何かできないか主に意見を伺いたい。また、まち歩き等に引き続き取り組んでいけるようにしていきたいと考えている。

まず、ブラアイチの概要について説明する。愛知県河川課が主催するまち歩きイベントで、そのまちのストーリーを発掘し紹介していく取り組みである。専門家の解説を聞きながら川のある景色を歩き、まちの魅力を再発見することを目指したもので、2017年より県内13ヶ所で開催されている。過去の開催状況は、1日約300人から400人、多いところでは500人以上が来場し、県と開催地が協議して決めたルートを約2時間半から3時間かけて歩く。ルートの距離は約5kmから8km程度である。市町村によって地元企業とのコラボや狂言の公演と組み合わせることでそのまちの魅力をPRしたり、来場者へのおもてなしや、楽しく過ごせるような工夫が盛り込まれたイベントとなる。

次に、東浦での開催概要について説明する。令和5年10月28日の土曜日に開催予定で、メインとなる河川は明德寺川を予定している。6月時点のルート案では、イオンモール東浦、入海神社、緒川コミュニティセンター、地藏院、緒川城址、於大公園、乾坤院、於大の道及び文化センターをスポットに検討している。この各スポットごとに、県職員、町職員、ガイド等が配置され、その場合にちなんだ説明を行う。

最後に、当日の景観のPR方法についてだが、重点区域候補地区でもある緒川の屋敷と明德寺川がルートに入っているため、景観に関する説明も行うか、あるいは、景観としてスポットを一つ設けるか等が考えられる。展示系については、イオンモール東浦、コミュニティセンター、文化センター等が候補となる。また、スタート地点で、マップと一緒に景観コンテストのチラシや「うらうらさんぽ」を一緒に配りたいと考えている。説明は以上である。

委員長： 議題（3）についてご質問・ご意見を伺う。

委員： ルート案について、東浦の場合はスポットに行くことをメインの目的とするのではなく、歩いて楽しい道を選ぶべきだと考える。今の案では高低差を感じるができないので、ルートを見直した方がいい。

また、町内外の方が訪れるため、集合場所を緒川駅にすれば無人駅を体感できる面白い機会になるのではないかと思った。

委員： ルート案がもったいない。自分だったら文化センターを起点に、於大の道は歴史順に歩き、乾坤院に正面から入っていただきたい。スタンプラリー方式にして、旧道沿いの緒川城址、了願寺、善導寺等を巡る細かい道を、マップを頼りにうろうろ歩く方が楽しいのではないだろうか。旧道の何もないところを通るより、お寺がいろいろある中の道を回ってはどうか。

委員長： 最終的には主催者が決定するものになるが、景観で何かできないかという面で意見はないか。

委員： よく出来ているコースだと思った。イオンの集合は、大勢が集まるので安全を考えるとベストである。また、人は南に向けて歩くと気分がいい。緒川のまちなみでは、善導寺前の、愛知まちなみ建築賞を受賞した建物も見て回れるといいと思う。

委員： 皆で一斉に歩くのではなくバラバラと歩く感じになると思うので、わかりやすいところをスタート地点とするのは仕方がない。モデルコースは今のルート案として、足に自信のある方向けに寄り道できるコースを景観のPRと合わせて作ってみてはどうか。スタート地点で別のマップも配って、参加者の方にコースから外れた場所で景観を発見していただく。選択肢としてコースを示した方が、幅広く楽しんでもらえるのではないか。また、景観コンテストの期間中のため、歩きながら写真を投稿してくれた方にはゴール地点で何かプレゼント等をすれば応募作品も増えるのではないだろうか。

委員： コンセプト、テーマは何か。他市の例を見ても、コンセプトがはっきりしている。東浦の場合は、景観計画の基本理念である「根と狭間の上につくられた風土を守り育てる、於大の里の景観まちづくり」という言葉に尽きると思う。しかし今のルート案では、フラットなところをずっと歩いているため「根と狭間」感が全くない。特に旧道沿いで善導寺等のスポットを散りばめていけば、今やっている大河ドラマとの連動にもなる。景観のワークショップやアンケートの内容を落とし込んでいけな
いか。例えば入海神社の北の道を西に入ったところの南の路地は、行けば誰もが写真を撮るような場所がある。他にも、敷島屋の交差点を西に進み、かわい肥料店の前の坂を登っていくと越境寺の山門が山道の上に見えてくる。あの風景は絶景だと思う。振り返って東を見れば、昔海だったところやイオンモール東浦が望める。地形を感じながら歴史のあるところを目指すような回り方かどうか。再会広場の近くにある、住宅団地にあがっていくスロープから北方面を見ると、明德寺川の川の地形がわかる絶景が広がる。もしくは猪伏釜の交差点から少し西に行き、尾根

を歩いて、南の明德寺川を形成する部分、狭間が見られる。

委員： 景観コンテストと連動させていくのはいいと思う。また、保健センター（健康課）で、「健康の道」と称したウォーキングコースが3つほど掲示されている。コースの選択肢として参考にしてはどうか。

委員長： 約350人の来場が見込まれる中で、途中でお茶したり休憩したりできるような寄り道のニーズはあると考える。町内の店舗が参加者をキャッチできるようにする等、サブ企画が展開されると面白い機会になると考える。

委員： 天白遺跡や郷土資料館もコースに入れれば、より東浦のPRになると感じた。また、イオンモール東浦の中では商工業者に出展してもらうのか、単にスタート地点とゴール地点となるのかどちらなのかが気になる。休憩所はいろいろ設けられた方がよいと考える。

委員： 路地裏等で飲食店が残っているため、サブ的に紹介するのは有りだと思う。新しいところだと屋敷式区の珈琲店がある。江戸時代から続いている大黒屋等から近年のカリモク家具まで紹介すれば時代別の話ができ面白いのではないだろうか。

委員長： 地域で協力しながら、寺社仏閣や店舗と連携ができれば非常に楽しい機会になると考える。

委員： 景観共感プロジェクトについて、安易かもしれないが、今年の大河ドラマの力を借りてもいいと思っている。また、「うらうらさんぽ」をイベント化するのもいい。築50年を超えそうな公共施設、特に緒川小学校もあり、いろいろな景観が東浦を構成してきている。その点で、建築史や建築設計の専門である委員の方の協力をいただくことが重要と考えている。

町長： 本日はありがとうございました。黒塚については、解体の罪滅ぼしのようなイメージで、安易な発想であったかと思っている。ただし、解体自体は使い道が決まらない中で、安全性、老朽化によりいたずらに先延ばしするべきではないと考えている。道路拡幅については、従来であれば広げられるだけ広げた方が良かったが、今は全てがそうではない。今回いろいろなご意見をいただいたため、良いアイデアに繋げていけるよう期待をしている。

ブラアイチについては、店舗、見晴らし、お寺巡り、休憩所をどう取り込んでいけるかがポイントだと感じた。もう少し工夫をしてアイデアを膨らませてほしい。

事務局： 以上で本日の会議を終了します。ありがとうございました。